

〈令和3年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	Rankup
事業名	貧困世帯への支援事業
補助金額	200,000円
事業の目的	
事業目的は貧困世帯への生活支援が目的である。貧困世帯を支援している支援団体や貧困世帯に食料や日用品などの物品を寄付することで貧困世帯の生活支援を行う。	
事業の内容と成果・効果	
＜事業の経過と内容＞ 絆市：自団体が栽培した野菜を販売。売上金の一部で物資を購入し、貧困世帯を支援する団体等に提供する。 絆BOX：絆BOXという寄付箱を設置し地域の方から物資を寄付してもらう。 集まった物資に関しては貧困世帯を支援している団体等に物資を提供する。 ＜成果・効果＞ 絆市は13回開催することができ、物資の提供を4回行うことができた。 絆BOX設置は2カ所。1カ所目の当初は絆BOXがたまるまで3週間～4週間かかった。日が経つにつれ、認知度が上がり、10日前後でたまるようになり、多くの物資を提供できるようになった。 2カ所目は2月初旬に置いたばかりなので、まだそこまで物資が集まっていない状況である。 さらに野菜を提供してくださる農家の方も増え始めてきた。その結果、定期的に貧困世帯を支援している団体や物資を必要としている世帯に直接自団体が物資を提供できるようになった。 支援先の内訳は、貧困世帯を支援している団体が計2団体、直接自団体が支援した世帯が3世帯に至った。 物資を提供している団体や世帯から、感謝の声が増えてきた。 農家の方も今までは売れ残ってしまった野菜の使い道に困っていたが、自団体を通じて、必要としている方に届けることができ、喜んでた。このことはフードロスの削減にもつながっている。 1歩1歩ではあるが、自団体の取組が人のために役立っていると実感している。	
  (写真右) 設置した絆BOXに 寄せられた物資 (写真左) 野菜栽培のための 畑での作業の様子	
事業を実施しての課題	
絆市の課題：現在の野菜を栽培している畑の面積にも限りがある。今後団体が大きくなるにつれて、畑の面積も拡大していきたい。いかに利用できる畑を確保できるかが課題である。 絆BOXの課題：順調に物資は集まっているが、より多く物資を提供するためには絆BOXを設置していただく団体をいかに増やすが課題である。 団体の課題：少しずつではあるが、絆市や絆BOXを通じて自団体の認知が上がってきた。 絆市での売上も安定してきた。しかし、団体が法人格を取得したときに、補助金や寄付の力がないと継続することは難しい。今後はさらに絆市での売上を増加させるか、さらに団体を運営していくうえでの資金をいかに獲得していくのが課題である。	